

目的

- 安芸圏域の医療・介護関係者が、在宅療養患者を支えるための情報共有の場面で高知家@ラインの活用を進めることにより、ICTのメリットを活かした多職種連携の仕組みづくりを推進する。
- モデル事業の成果や課題を、安芸圏域での活用の広がりや県内全域への活用促進に活かす。

取り組み内容

* ケアライン導入検討時の圏域の状況；地域や事業所ごとに日ごろの連携状況の差異のほか、職員のICT活用スキルや事業所の情報リテラシーの差が顕著だった。

登録患者数及びアクセス数

モデル事業実施前 (R元.6月末時点)	現時点 (R2.11月末時点)
登録患者数： 44人 アクセス数： 297件	登録患者数： 306人 アクセス数： 1,964件

- 活用ルール検討の段階では、活用は進まなかった。
- 介護支援専門員等の医療介護関係者が「誰のために」「どのような情報を共有したいか」との視点で取り組み始めたことで、活用が進み始めた。
- 活用事例の横展開では、ブロックごとのワーキング等を活用して、地域ごとにケアラインの活用方法や事業所間の連携に関するルールの検討、活用事例の共有等意見交換を行った。

	R元	R2
Bワーキング	16回	4回
中間報告会	1回	1回
最終報告会	—	1回

【参加事業所】

施設種別/地域別	安芸・芸西		中芸		室戸・東洋		南国・香美		計	
	R元	R2	R元	R2	R元	R2	R元	R2	R元	R2
病院・診療所	9	7	4	2	5	4	0	0	18	13
薬局	14	13	3	3	5	3	0	0	22	19
居宅介護支援事業所等	14	14	4	3	6	3	0	0	24	20
介護事業所	23	22	9	8	10	5	2	2	44	37
地域包括支援センター	2	2	1	1	2	2	0	0	5	5
福祉保健所	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
計	63	59	21	17	28	17	2	2	114	95

モデル事業により確認できた成果

～ケアラインのメリット等～

① 迅速な情報共有が可能

- 以前は複数関係者が個別に電話でやりとりして情報共有していたが、ケアラインを活用することでタイムラグなく迅速かつ正確に情報を共有することができる。
- 処方内容や注意事項を診療所や調剤薬局と詳細に共有できるので、副作用が出た際に早く対応することができる。

② 画像等による情報共有

- 介護関係者が写真や動画で患者の状態を共有することで、医師、理学療法士等が本人会えないタイミングでも実際の状態や在宅の様子を確認できる。
- 褥瘡や浮腫、ケガの状態は、口頭より写真で共有した方が的確に伝わる。

③ 事務の負担軽減

- 複数関係者に個別に持参していた書類をケアラインで共有することで時間等負担が軽減できる。

④ 多職種による支援の進展

- 認知症や独居等で生活に心配のある高齢者についてケアラインでタイムリーな情報共有することにより、状態の悪化やサービスの利用拒否等に関係者が作戦を練って支援することができる。

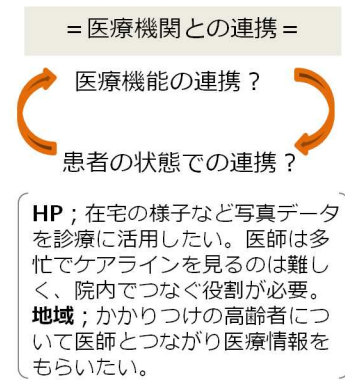
⑤ ICTの有効性

- コロナ禍で受診頻度が減る状況において介護関係者がケアラインに上げた情報が大きい役立つ。

今後の取り組み

- 医療・介護資源の連携等地域の状況に応じて、医療介護、行政等関係者の合意形成のもと活用策を検討しながら、ケアラインによる個別支援の取り組みを進める。

	医療政策課・高知大学	安芸圏域
H27年度	・在宅医療・介護連携 ICTシステムに係る宿毛市の取り組み紹介	*福祉保健所の役割;市町村が進める医療・介護連携において、ICT活用により多職種が連携した在宅高齢者の支援が進むよう、地域の状況に応じた取り組みを支援する。
H28年度	【安芸市】システム普及啓発打合せ（6月）	【安芸市・芸西村】システム説明会（8月）
		【安芸市・芸西村】システム運用ルール検討会（9月）
H29年度		【安芸市】システム運用についての検討会（8月）※室戸市参加 【安芸市】システム検討会 7回（9月～毎月1回）
H30年度	◆高知家@ライン試用（モデル事業）に係る説明会 室戸・東洋 2月、安芸・芸西 3月 中芸 3月	【安芸市】医療・介護情報連携システム検討会 12回（毎月）



活用策・ルールの話し合い

モデル事業

高知家@ラインモデル事業	
R 1年度	<p>【実施主体；医療政策課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施期間；7月～R 2.3月 ◆モデル事業説明会・タブレット等配付；3ブロック 7月 ◆中間報告会；9月 ◆ブロックワーキング；安芸・芸西10回、室戸・東洋6回 <p>《福祉保健所》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組み状況ヒアリング（12月） ・好事例等取りまとめ ・医療機関との協議（医療政策課と協働） ・難病担当のモデル事業参加 <p>・安芸圏域地域包括ケア推進協議体等での薬剤師と多職種の意見交換</p>
モデル期間延長	
R 2年度	<p>【実施主体；高知大学（委託事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施期間；4月～12月 ◆中間報告会；9月 ◆最終報告会；12月 → 事例まとめ ◆ブロックワーキング；安芸・芸西2回、室戸・東洋2回 <p>服薬支援等、薬剤師との連携事例が増加</p>

誰のために活用が進み始めたか個別の連携を取り組む